



リモート プレゼンスの管理

この章は、次の項で構成されています。

- [仮想 KVM の管理 \(1 ページ\)](#)
- [仮想メディアの設定 \(5 ページ\)](#)
- [Serial over LAN の管理 \(11 ページ\)](#)

仮想 KVM の管理

KVM コンソール

KVM コンソールは Cisco IMC からアクセス可能なインターフェイスであり、サーバへのキーボード、ビデオ、マウス (KVM) の直接接続をエミュレートします。KVM コンソールを使用すると、リモートの場所からサーバに接続できます。

サーバに物理的に接続された CD/DVD ドライブまたはフロッピー ドライブを使用する代わりに、KVM コンソールは仮想メディアを使用します。これは、仮想 CD/DVD ドライブまたはフロッピー ドライブにマップされる実際のディスク ドライブまたはディスク イメージファイルです。次のいずれでも仮想ドライブにマップできます。

- コンピュータ上の CD/DVD またはフロッピー ドライブ
- コンピュータ上のディスク イメージファイル (ISO または IMG ファイル)
- コンピュータ上の USB フラッシュ ドライブ
- ネットワーク上の CD/DVD またはフロッピー ドライブ
- ネットワーク上のディスク イメージファイル (ISO または IMG ファイル)
- ネットワーク上の USB フラッシュ ドライブ

KVM コンソールを使用してサーバに OS をインストールできます。



- (注) S3260 ストレージサーバに KVM コンソールを正常に設定するには、Cisco IMC、CMC および BMC コンポーネントの IP アドレスを設定する必要があります。CLI インターフェイスまたは Web UI を使用してこれらのコンポーネントの IP アドレスを設定できます。CLI の場合は、コマンド `scope network` を使用するか、または `scope <chassis/server1/2><cmc/bmc><network>` を使用して設定を表示します。

Web インターフェイスでネットワーク コンポーネントの IP アドレスを設定するには、「ネットワーク関連の設定」の項に記載する手順を参照してください。

仮想 KVM のイネーブル化

始める前に

仮想 KVM をイネーブルにするには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # <code>scope server {1 2}</code>	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /server # <code>scope kvm</code>	KVM コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server /server/kvm # <code>set enabled yes</code>	仮想 KVM をイネーブルにします。
ステップ 4	Server /server/kvm # <code>commit</code>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 5	Server /server/kvm <code>show [detail]</code>	(任意) 仮想 KVM の設定を表示します。

例

次に、仮想 KVM をイネーブルにする例を示します。

```
Server# scope server 1
Server /server # scope kvm
Server /server/kvm # set enabled yes
Server /server/kvm *# commit
Server /server/kvm # show detail
KVM Settings:
  Encryption Enabled: yes
  Max Sessions: 4
  Local Video: yes
  Active Sessions: 1
  Enabled: yes
```

```
KVM Port: 2068
```

```
Server /server/kvm #
```

仮想 KVM のディセーブル化

始める前に

仮想 KVM をイネーブルにするには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /server # scope kvm	KVM コマンドモードを開始します。
ステップ 3	Server /server /kvm # set enabled no	仮想 KVM をディセーブルにします。 (注) 仮想 KVM をディセーブルにすると仮想メディア機能へのアクセスがディセーブルになります。仮想メディアがイネーブルであれば仮想メディア デバイスは切断されません。
ステップ 4	Server /server/kvm # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 5	Server /server/kvm show [detail]	(任意) 仮想 KVM の設定を表示します。

例

次に、仮想 KVM をイネーブルにする例を示します。

```
Server# scope server 1
Server /server # scope kvm
Server /server/kvm # set enabled no
Server /server/kvm *# commit
Server /server/kvm # show detail
KVM Settings:
  Encryption Enabled: yes
  Max Sessions: 4
  Local Video: yes
  Active Sessions: 0
```

```
Enabled: no
KVM Port: 2068
```

```
Server /server/kvm #
```

仮想 KVM の設定

始める前に

仮想 KVM を設定するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /server# scope kvm	KVM コマンドモードを開始します。
ステップ 3	Server /server/kvm # set enabled {yes no}	仮想 KVM をイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 4	Server /server/kvm # set encrypted {yes no}	暗号化をイネーブルにすると、サーバは KVM で送信されるすべてのビデオ情報を暗号化します。
ステップ 5	Server /server/kvm # set kvm-port ポート	KVM 通信に使用するポートを指定します。
ステップ 6	Server /server/kvm # set local-video {yes no}	ローカルビデオが [yes] である場合、KVM セッションはサーバに接続されているすべてのモニタにも表示されます。
ステップ 7	Server /server/kvm # set max-sessions セッション	許可されている KVM の同時セッションの最大数を指定します。sessions 引数は、1 ~ 4 の範囲の整数になります。
ステップ 8	Server /server/kvm # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 9	Server /server/kvm show [detail]	(任意) 仮想 KVM の設定を表示します。

例

次に、仮想 KVM を設定し、その設定を表示する例を示します。

```

Server# scope server 1
Server /server # scope kvm
Server /server/kvm # set enabled yes
Server /server/kvm *# set encrypted no
Server /server/kvm *# set kvm-port 2068
Server /server/kvm *# set max-sessions 4
Server /server/kvm *# set local-video yes
Server /server/kvm *# commit
Server /server/kvm # show detail
KVM Settings:
  Encryption Enabled: no
  Max Sessions: 4
  Local Video: yes
  Active Sessions: 0
  Enabled: yes
  KVM Port: 2068

Server /server/kvm #

```

次のタスク

GUI から仮想 KVM を起動します。

仮想メディアの設定

始める前に

仮想メディアを設定するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope vmedia	仮想メディア コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server/vmedia # set enabled {yes no}	仮想メディアをイネーブルまたはディセーブルにします。デフォルトでは、仮想メディアはディセーブルになります。 (注) 仮想メディアをディセーブルにすると、仮想 CD、仮想フロッピー、および仮想 HDD デバイスがホストから切断されます。
ステップ 3	Server/vmedia # set encryption {yes no}	仮想メディアの暗号化をイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 4	Server/vmedia # set low-power-usb-enabled {yes no}	低電力 USB をイネーブルまたはディセーブルにします。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>(注) UCS VIC P81E カードを持つサーバに ISO をマッピングしているときに NIC が Cisco Card モードである場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> 低電力 USB をイネーブルにすると、ISO をマッピングしてホストを再起動した後にカードがリセットされ、ISO マッピングは失われます。仮想ドライブはブートの選択メニューに表示されません。 低電力 USB をディセーブルにすると、ISO をマッピングしてホストと Cisco IMC を再起動した後、ブートの選択メニューに仮想ドライブが正しく表示されます。
ステップ 5	Server /vmedia # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 6	Server /vmedia # show [detail]	(任意) 仮想メディアの設定を表示します。

例

次に、仮想メディアの暗号化を設定する例を示します。

```

Server# scope vmedia
Server /vmedia # set enabled yes
Server /vmedia *# set encryption yes
Server /vmedia *# set low-power-use-enabled no
Server /vmedia *# commit
Server /vmedia # show detail
vMedia Settings:
  Encryption Enabled: yes
  Enabled: yes
  Max Sessions: 1
  Active Sessions: 0
  Low Power USB Enabled: no

Server /vmedia #

```

次のタスク

KVM を使用して、仮想メディア デバイスをホストに接続します。

Cisco IMC マップされた vMedia ボリュームの設定

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /server# scope vmedia	仮想メディア コマンド モードを開始します。
ステップ 3	サーバ/サーバ/vmedia # map-cifs { volume-name remote-share remote-file-path [マウント オプション]}	vMedia の CIFS ファイルをマッピングします。次を指定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> 作成するボリュームの名前 IP アドレスおよびエクスポートされるディレクトリを含むリモート共有 エクスポートされるディレクトリに対応するリモートファイルのパス。 (任意) マッピング オプション サーバに接続するためのユーザ名とパスワード
ステップ 4	Server /server/vmedia # map-nfs { volume-name remote-share remote-file-path } [マウント オプション]}	vMedia の NFS ファイルをマッピングします。次を指定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> 作成するボリュームの名前 IP アドレスおよびエクスポートされるディレクトリを含むリモート共有 エクスポートされるディレクトリに対応するリモートファイルのパス。 (任意) マッピング オプション

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	Server /server/vmedia # map-www { volume-name remote-share remote-file-path } [マウント オプション]	vMedia の HTTPS ファイルをマッピング します。次を指定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 作成するボリュームの名前 • IP アドレスおよびエクスポートさ れるディレクトリを含むリモート共 有 • エクスポートされるディレクトリに 対応するリモートファイルのパス。 • (任意) マッピング オプション • サーバに接続するためのユーザ名と パスワード

例

次に、CIFS Cisco IMC マップされた vmedia 設定を作成する例を示します。

```
Server # scope server 1
Server /server #scope vmedia
Server /server/vmedia # map-cifs sample-volume //10.10.10.10/project /test/sample
Server username:
Server password: ****
Confirm password: ****

Server /server/vmedia #
```

Cisco IMC マップされた vMedia ボリューム プロパティの表示

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /server # scope vmedia	仮想メディア コマンド モードを開始し ます。
ステップ 3	Server /server/vmedia # show mappings 詳 細	設定されたすべての vMedia マッピング の情報を表示します。

例

次に、設定されたすべての vMedia マッピングのプロパティを表示する例を示します。

```
Server # scope server 1
Server /server/scope vmedia
Server /server/vmedia # show mappings

Volume Map-status Drive-type remote-share remote-file
mount-type
-----
-----
-----
-----
-----
Huu OK removable http://10.104.236.99/ rhel-server-6.1-x86_6.iso
www
Rhel OK CD http://10.104.236.99/ rhel-server-6.1-x86_6.iso
www

Server /server/vmedia #
```

既存の Cisco IMC vMedia イメージの再マッピング

始める前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限でログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope vmedia	vMedia コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /vmedia # show saved-mappings	利用可能な保存済みのマッピングを表示します。
ステップ 3	Server /vmedia # remap マッピング ボリューム	VMedia を再マッピングします。 (注) このコマンドの変数として保存されているマッピングのボリューム名を使用する必要があります。
ステップ 4	(任意) Server /vmedia # show mappings	マッピングされた vMedia の詳細を表示します。

例

次に、保存されているマッピングに vMedia イメージを再マッピングする例を示します。

```

Server # scope vmedia
Server/vmedia # remap huu
Server/vmedia # show mappings
Volume          Map-Status          Drive-Type Remote-Share          Remote-File
Mount-Type
-----
huu              OK                               CD          https://10.104.236.99...
ucs-c240-huu-3.0.0.33... www
Server/vmedia # show saved-mappings
Volume          Drive-Type Remote-Share          Remote-File          Mount-Type
-----
huu              CD          https://10.104.236.99... ucs-c240-huu-3.0.0.33... www
Server/vmedia #

```

Cisco IMC vMedia イメージの削除

始める前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限でログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope vmedia	vMedia コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /vmedia # delete-saved-mappings	確認プロンプトで yes と入力します。 保存済みのマッピングを削除します。
ステップ 3	Server /vmedia # show saved-mappings	削除されたので、保存されたマッピング は表示されません。

例

次の例は、保存されたマッピングの削除方法を示します。

```

Server # scope vmedia
Server/vmedia # show saved-mappings
Volume          Drive-Type Remote-Share          Remote-File          Mount-Type
-----
huu              CD          https://10.104.236.99... ucs-c240-huu-3.0.0.33... www
Server/vmedia # delete-saved-mappings
Purge saved mappings? Enter 'yes' to confirm -> yes
Server/vmedia # show saved-mappings
Server/vmedia #

```

Serial over LAN の管理

Serial Over LAN

Serial over LAN (SoL) は、IP を介した SSH セッションを利用して、管理対象システムのシリアルポートの入力と出力をリダイレクトできるようにするメカニズムです。SoL は、Cisco IMC 経由でホスト コンソールに到達するための手段となります。

Serial Over LAN に関するガイドラインおよび制約事項

SoL にリダイレクトするには、サーバコンソールに次の設定が含まれている必要があります。

- シリアル ポート A へのコンソール リダイレクション
- フロー制御なし
- SoL に設定されたのと同じボー レート
- VT-100 端末タイプ
- レガシー OS のリダイレクションが無効

SoL セッションは、ブート メッセージなどの行指向の情報や、BIOS 設定メニューなどの文字指向の画面メニューを表示します。サーバで Windows などのビットマップ指向表示のオペレーティングシステムやアプリケーションが起動されると、SoL セッションによる表示はなくなります。サーバで Linux などのコマンドライン指向のオペレーティング システム (OS) が起動された場合、SoL セッションで適切に表示するために OS の追加設定が必要になることがあります。

SoL セッションでは、ファンクション キー F2 を除くキーストロークはコンソールに送信されます。F2 をコンソールに送信するには、Escape キーを押してから 2 を押します。

Serial over LAN の設定

始める前に

Serial over LAN (SoL) を設定するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /server# scope sol	SoL コマンド モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	Server /server/sol # set enabled {yes no}	このサーバで SoL をイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 4	Server /server/sol # set baud-rate {9600 19200 38400 57600 115200}	システムが SoL 通信に使用するシリアルボーレートを設定します。 (注) このボーレートは、サーバのシリアルコンソールで設定したボーレートと一致する必要があります。
ステップ 5	(任意) Server /server/sol # set comport {com0 com1}	システムが SoL 通信をルーティングするシリアルポートを設定します。 (注) このフィールドは一部の C シリーズサーバだけで使用できます。使用できない場合、サーバは、SoL 通信に COM ポート 0 を使用します。 次を指定することができます。 <ul style="list-style-type: none"> • [com0] : SoL 通信は、外部デバイスへの物理 RJ45 接続またはネットワーク デバイスへの仮想 SoL 接続をサポートする、外部からアクセス可能なシリアルポートである COM ポート 0 を介してルーティングされます。 このオプションを選択すると、システムは、SoL をイネーブルにし、RJ45 接続をディセーブルにします。これは、サーバが外部シリアルデバイスをサポートできなくなることを意味します。 • [com1] : SoL 通信は、SoL だけを介してアクセス可能な内部ポートである、COM ポート 1 経由でルーティングされます。 このオプションを選択した場合、COM ポート 1 上の SoL および COM ポート 0 上の物理 RJ45 接続を使用できます。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) comport設定を変更すると、既存のすべての SoL セッションは切断されます。
ステップ6	Server /sol # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ7	Server /sol # show [detail]	(任意) SoL の設定を表示します。

例

次に、SoL を設定する例を示します。

```
Server# scope server 1
Server /server #scope sol
Server /server/sol # set enabled yes
Server /server/sol *# set baud-rate 115200
Server /server/sol *# set comport com1
Server /server/sol *# commit
Server /server/sol # show
Enabled Baud Rate(bps) Com Port
-----
yes      115200          com1
Server /sol # show detail
Serial Over LAN:
  Enabled: yes
  Baud Rate(bps): 115200
  Com Port: com1
Server /server/sol #
```

